

令和3年6月17日

「新型コロナ感染症拡大に伴う対応と今後の取組（全通研東京大会 第1分科会 本部発表）」

神奈川県立横浜修悠館高等学校 副校長 野中 幹子

群馬県立太田フレックス高等学校 教頭 亀井 絹子

千葉県立千葉大宮高等学校 教頭 佐々木 浩幸

埼玉県立大宮中央高等学校 教頭 上田 毅一

1 はじめに

令和2年4月上旬、国は、新型コロナウイルスの感染拡大への対応として、特別措置法に基づく「緊急事態宣言」を発令し、これを受けて各都道府県では臨時休校等の措置が行われました。休校期間の長期化に伴って、オンライン授業や学習動画等、ICTを活用した学習への注目が高まるなかで、全国の学校ではICT環境の整備が喫緊の課題となりました。その後、5月の宣言解除により学校は再開されましたが、国が学びの保障を掲げて授業時間の確保を求めたことから、各通信制高校においても、様々な工夫や取組が行われました。その後、新型コロナウイルス感染症は、第2波、第3波と感染者の増減を繰り返し、現在も緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置等が発令されている地域が複数存在している状況にあります。一斉臨時休校措置は行われず、各地域・学校は感染防止対策を講じながら教育活動を継続しております。本発表においては、昨年度12月に実施したアンケート調査についてまとめ、考察し、コロナ禍でのこれまでの対応を振り返るとともに、ICTの活用など、先進的な取組を紹介することで、今後の通信制高校のあり方について情報を共有したいと考えています。

2 アンケート調査について

(1) 調査項目の作成

令和2年11月にアンケートを作成した。調査項目は、新型コロナウイルス感染症による臨時休校期間中と学校再開後の対応、取組としました。また、臨時休業、再開後の活動制限等を好機ととらえた学習活動、学校行事、部活動等、各校の効果的な取組事例を提供してもらいました。

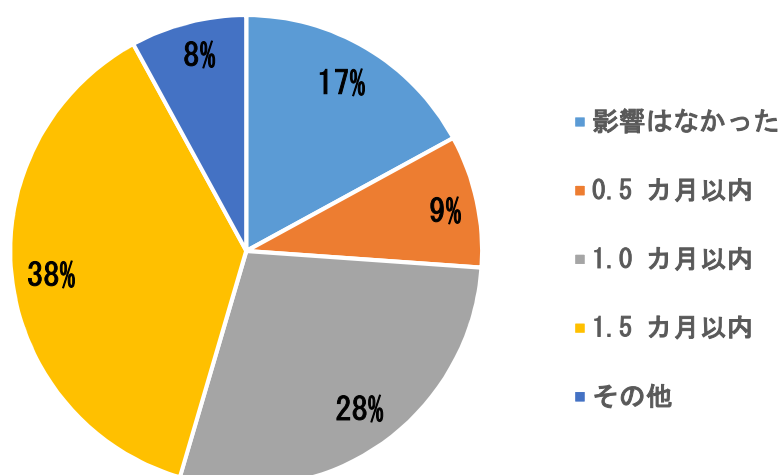
(2) 調査を実施した時期と方法

令和2年12月に全通研に加盟する118校に、各地区通研を通じて電子メールにてファイルを送信し、98校から回答を得ました。

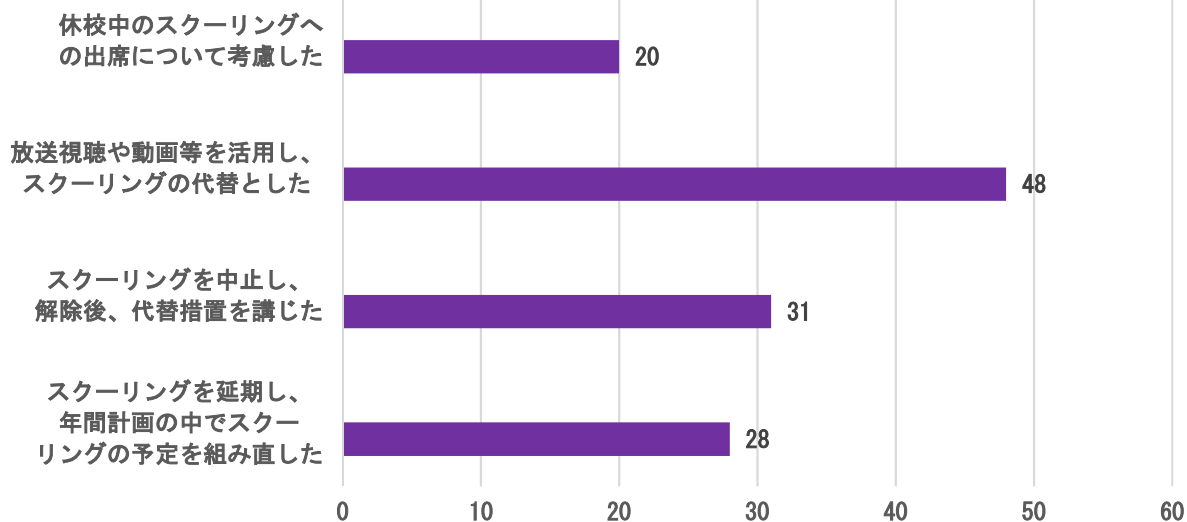
3 会員校におけるアンケート回答から

(1) 臨時休校期間中における対応等

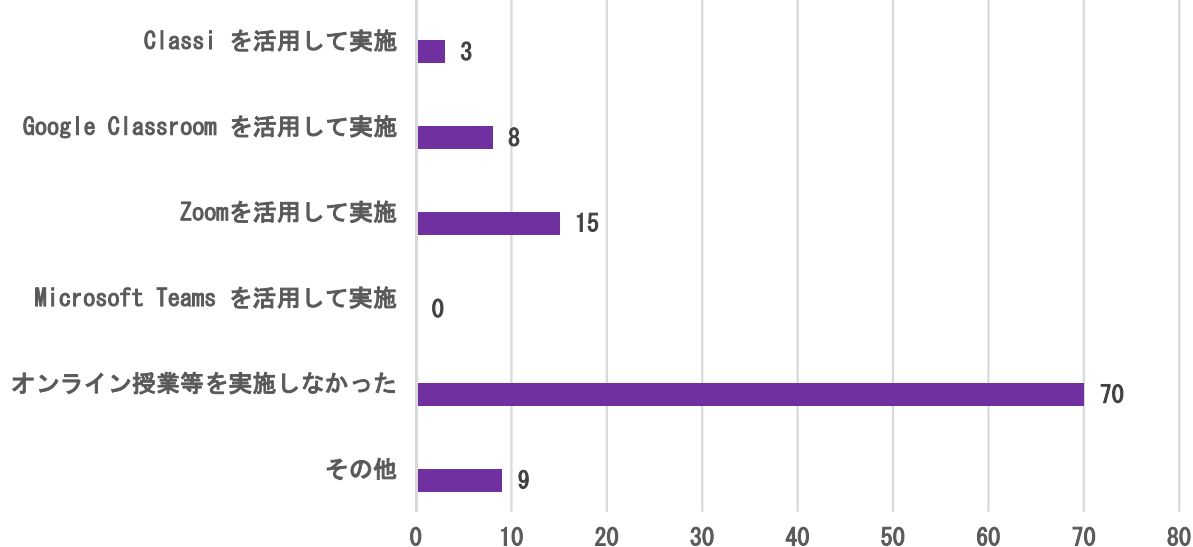
Q1 スクーリング期間への影響について



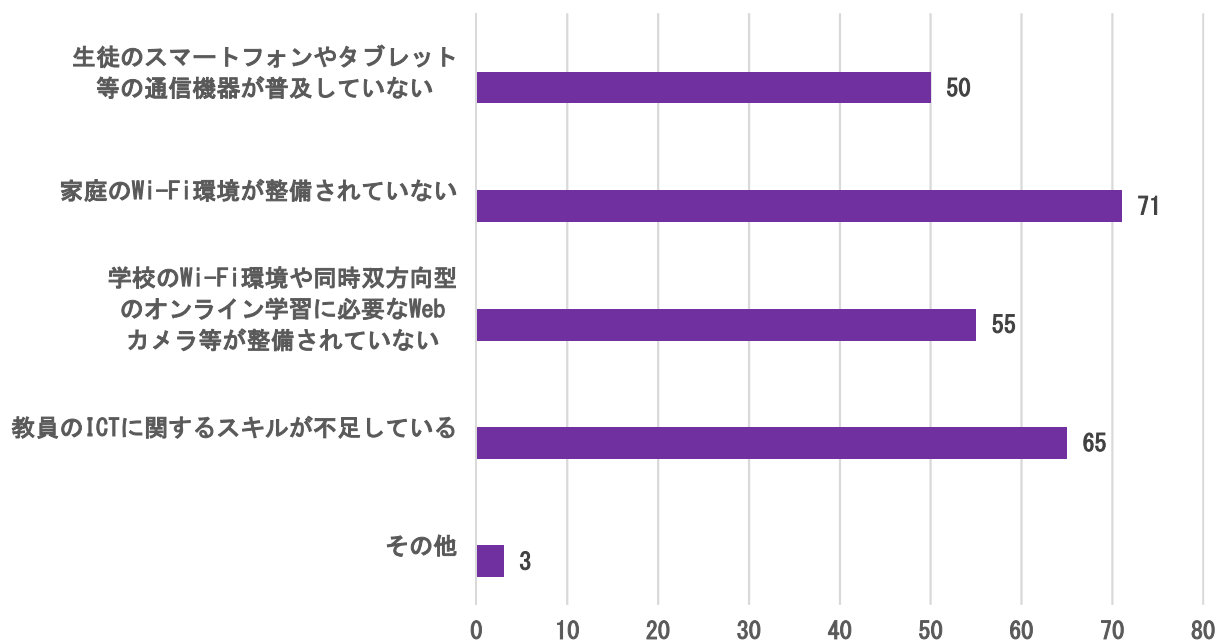
Q2 スクーリングへの対応について（複数回答可）



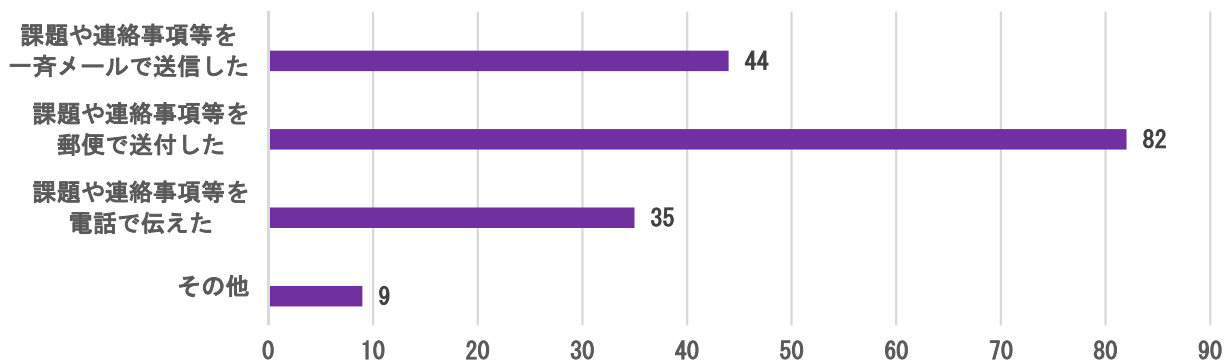
Q3 オンライン授業等に係るICTの活用及び活用したアプリケーションについて（複数回答可）



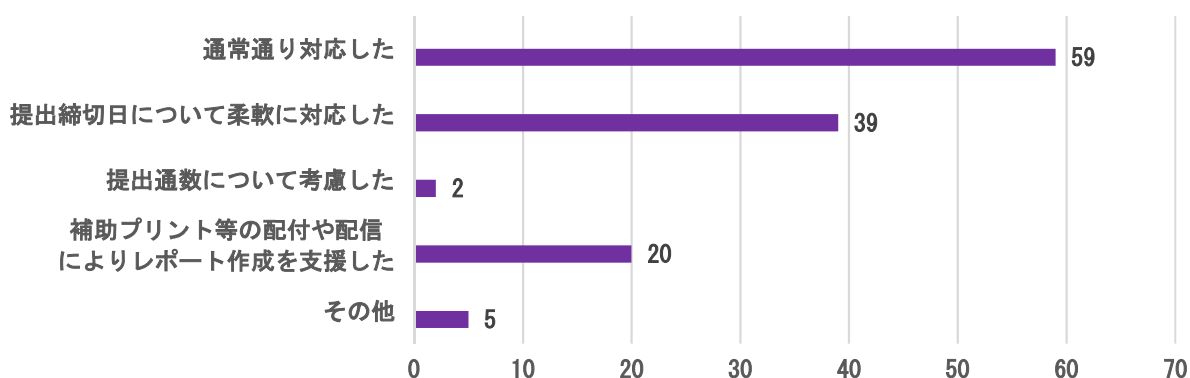
Q4 オンライン授業等を実施する際の課題について（複数回答可）



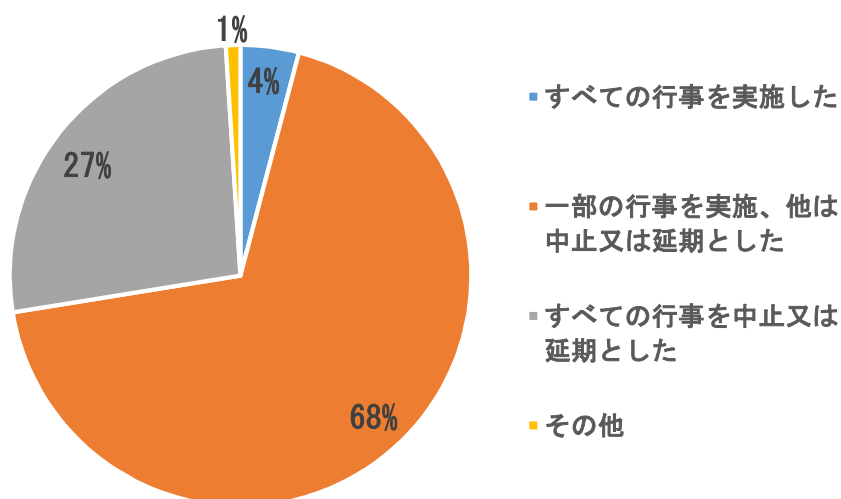
Q5 活用しなかった場合、またオンライン授業等と併用した生徒への学習支援について（複数回答可）



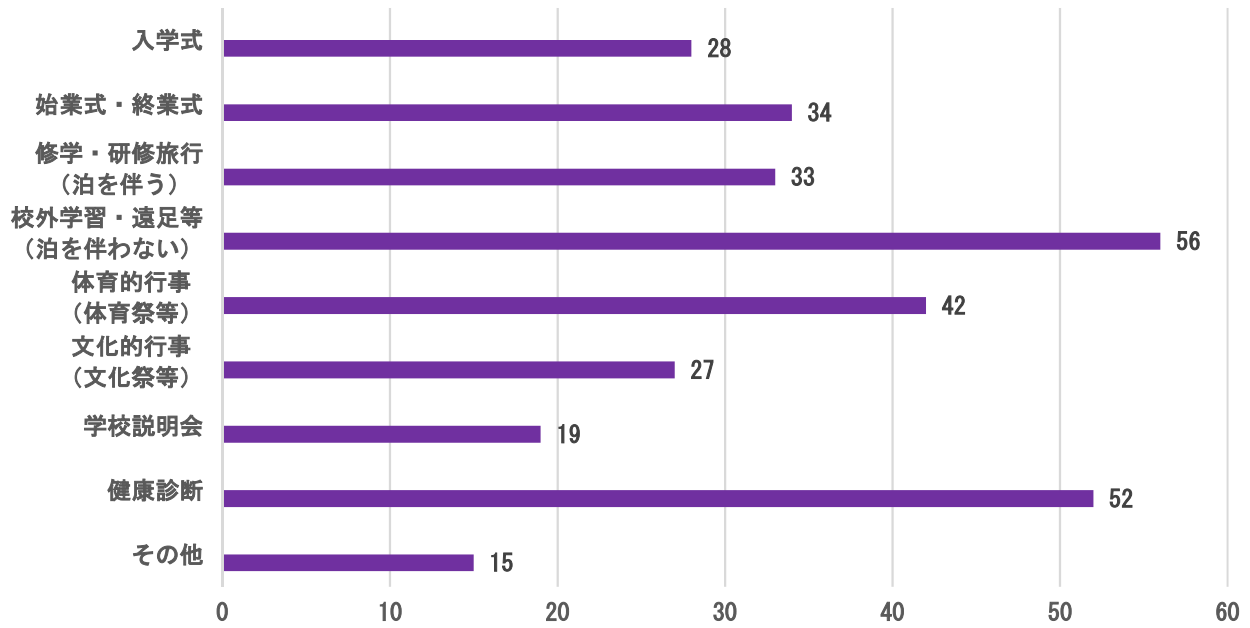
Q6 レポートへの対応について（複数回答可）



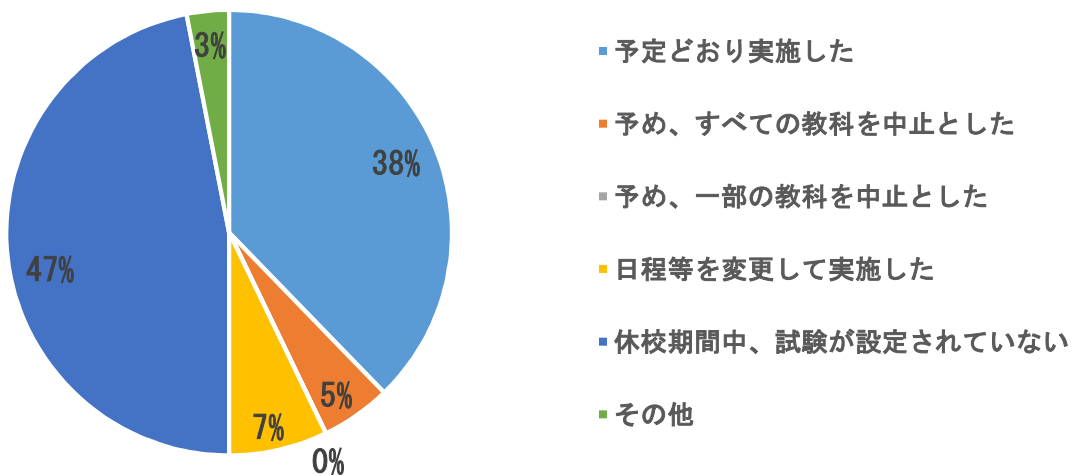
Q7 学校行事への対応について



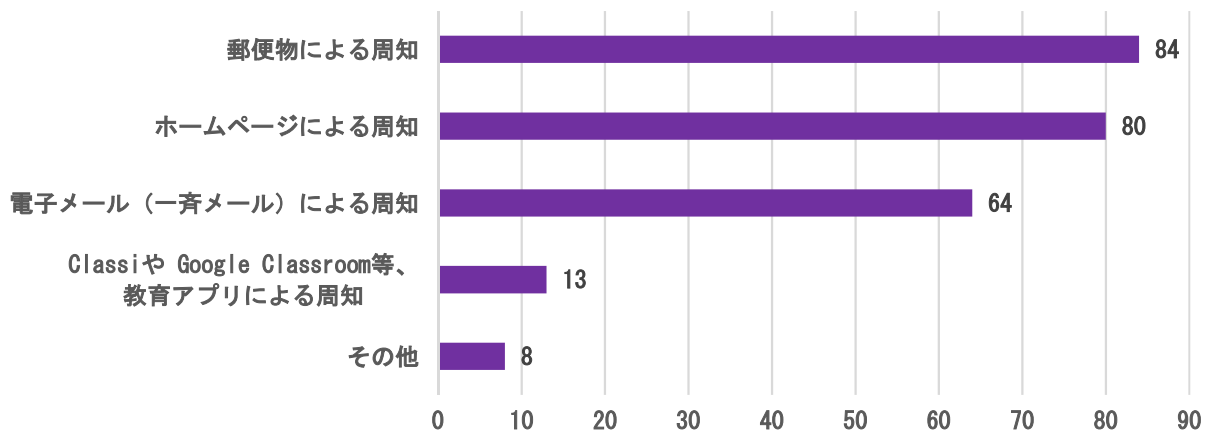
Q8 中止又は延期した行事について（複数回答可）



Q9 試験への対応について

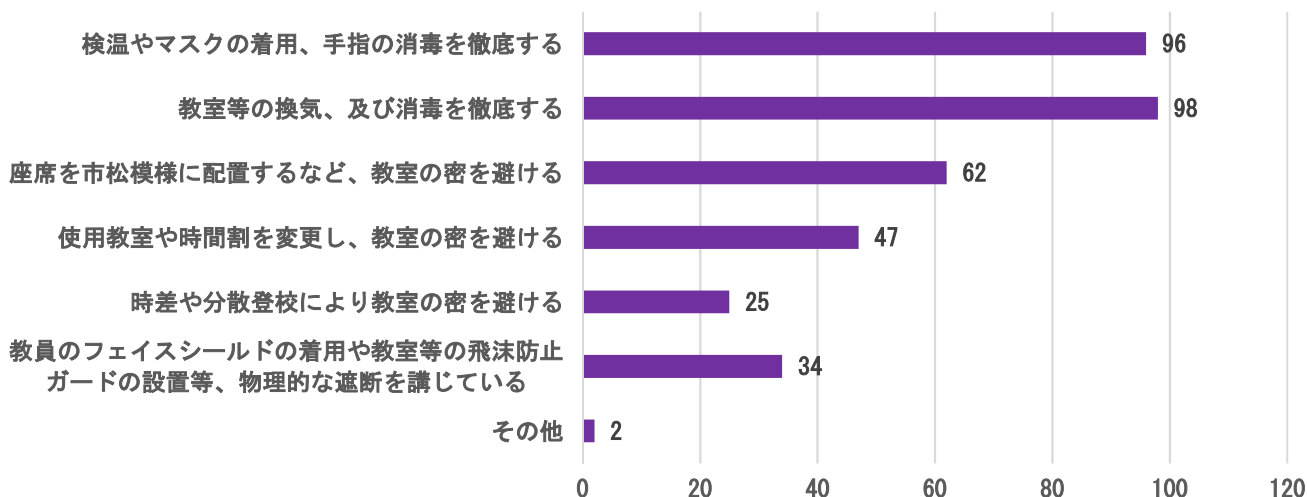


Q10 生徒への周知方法について（複数回答可）

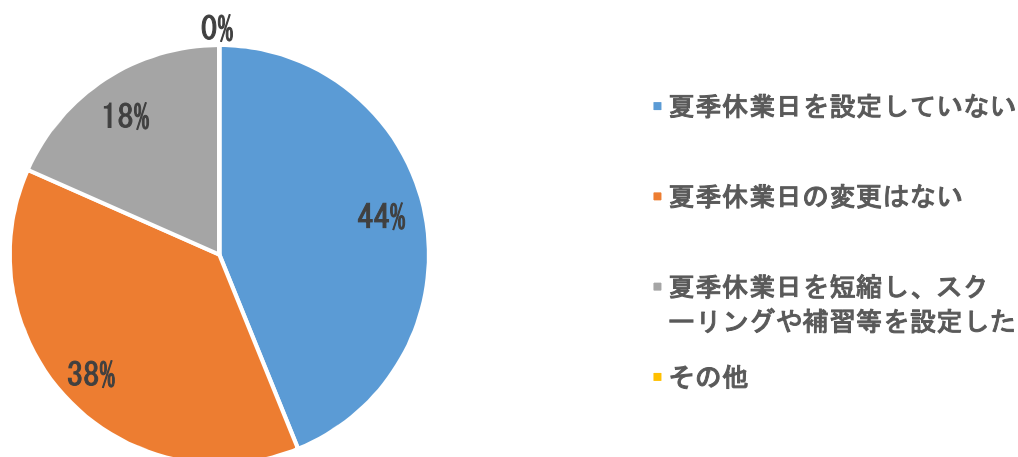


(2) 学校再開後の取組等

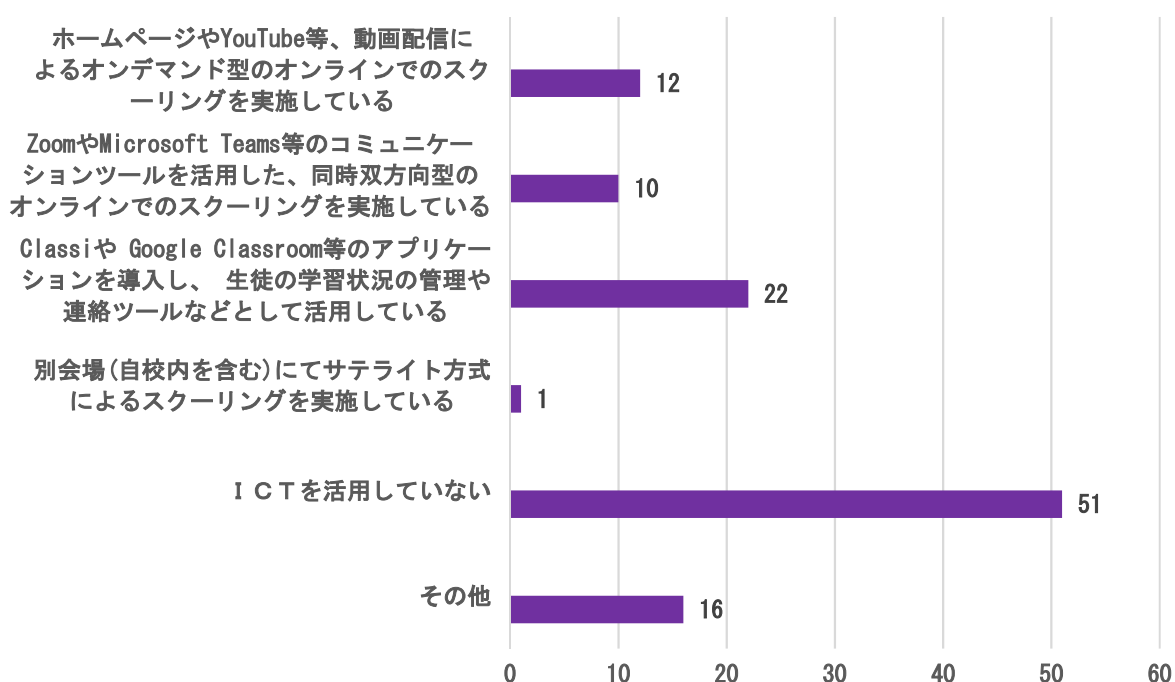
Q1 登校時の取組について（複数回答可）



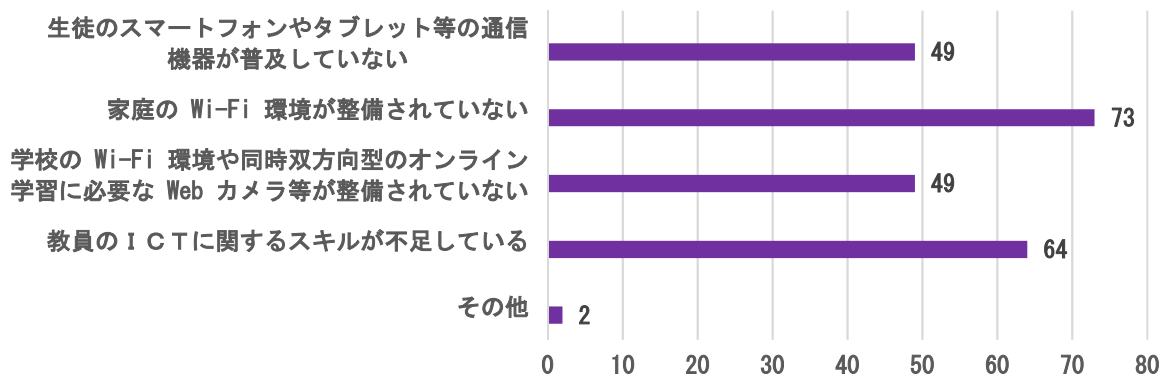
Q2 夏季休業日の取組について



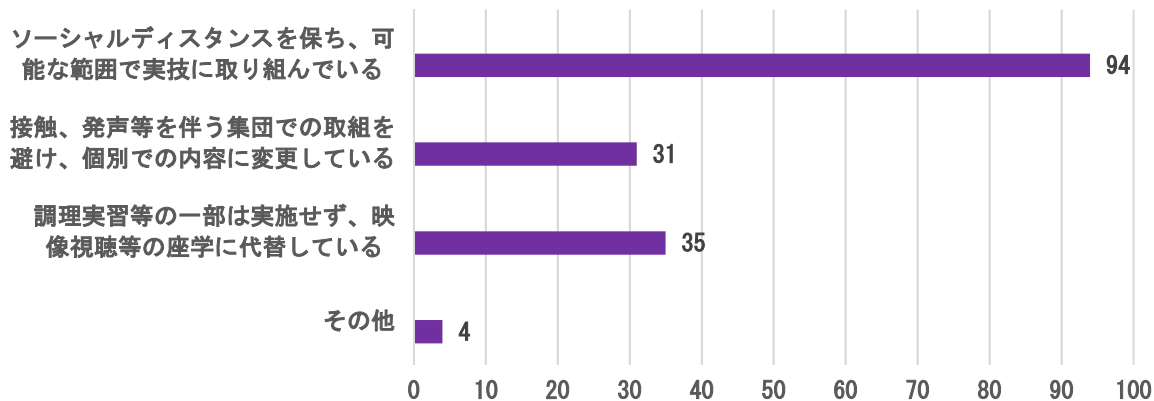
Q3 ICTの活用について（複数回答可）



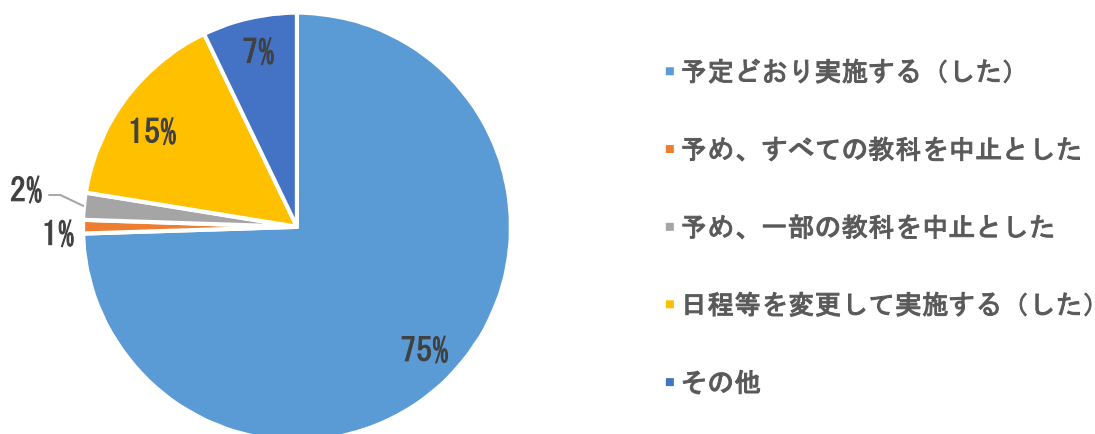
Q4 ICT活用の課題について（複数回答可）



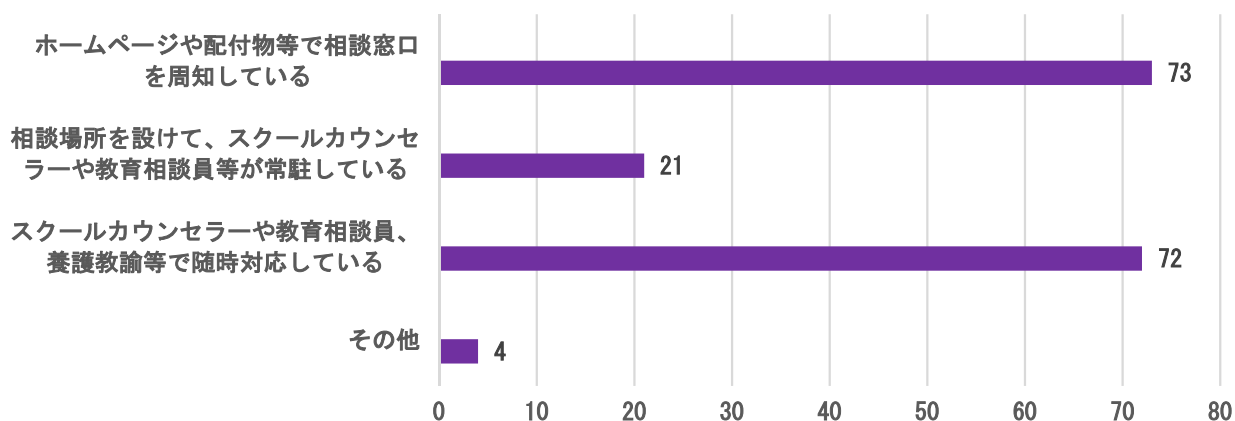
Q5 音楽や体育、家庭等の実技科目の扱いについて（複数回答可）



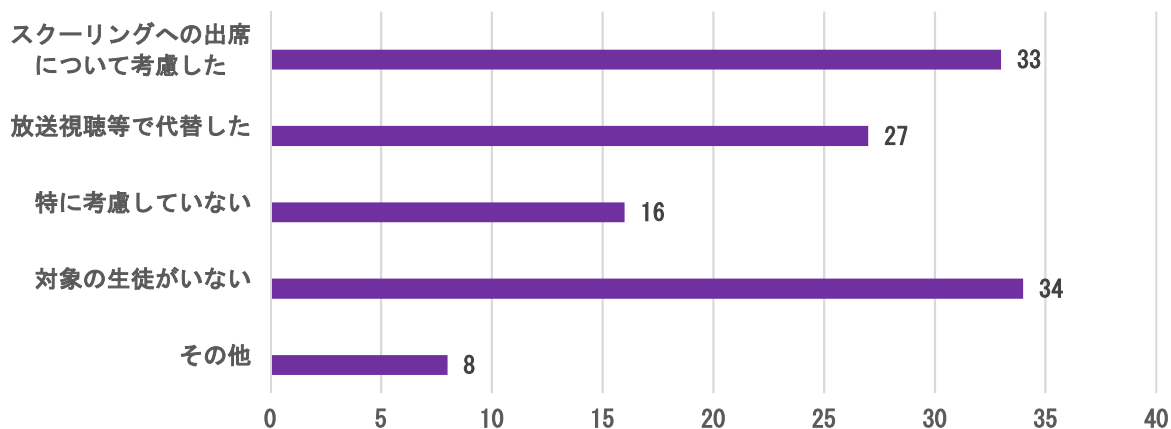
Q6 試験への対応について



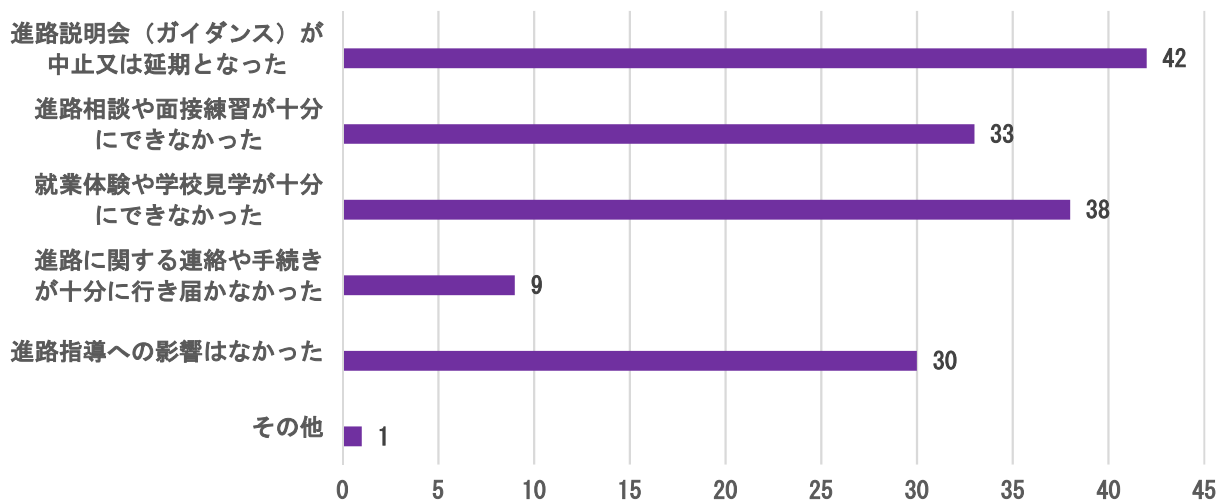
Q7 教育相談等、心のケアについて（複数回答可）



Q8 感染が怖く、登校できない生徒への対応について（複数回答可）



Q9 進路指導への影響について（複数回答可）



(3) 効果的な活動保障の取組（自由記述）

- ・生徒の所有するスマートフォンを活用した。
- ・特別活動が中止になったため人権標語等の各種作品応募活動を代替とした。
- ・HP上の「ウェブマガジン」による代替及び配信。
- ・e-スポーツ部を作った。
- ・放送視聴による出席代替を全教科・科目で取り組むきっかけになった。
- ・ICT教育推進委員会をつくった。
- ・体育大会の実施方法を検討し、ネットを挟んで行うスポーツ大会に変更した。
- ・県内全域から集まる行事は、各地区のキャンパスでの分散開催とした。
- ・文化祭等の生徒会行事をWeb会議システムを活用して行った。
- ・生徒、保護者からのオンライン相談窓口を開設した。

(4) 第二波、第三波への対応（自由記述）

- ・学校のWi-Fi環境、ICT機器の整備。
- ・教職員のICT教育技術向上のための研修。
- ・オンライン授業、オンラインでのレポート提出等の準備。
- ・学校行事の精選、検討。
- ・サーマルカメラの導入、授業時の座席把握。

4 特色ある取組

(1) 大阪・向陽台高等学校

- 生徒の学習機会の保障としての取組～「Google Classroom」の導入～
 - ・ 学校行事のオンライン化
 - ・ 複数教室接続同時のスクーリングの展開
 - ・ 各種会議のオンライン化
 - ・ 学習支援として動画配信や学習内容の指示
 - ・ 個別指導を要する生徒とのスケジュール管理
 - ・ レポートの画像提出及び Web 添削
- 情報発信力の強化と人材育成のためのプラットフォームの作成～「Web マガジン」の発刊～
 - ・ 学校行事等のトピックスを定期的に発信
 - ・ コンソーシアムの中核として多様なコンテンツを提供
 - ・ 外部との連携による不登校生徒への学習支援

(2) 神奈川県立横浜修悠館高等学校

- 横浜修悠館マイページの充実
 - ・ 学習ページにおいて、レポートの補足説明はもとより、オンデマンド型の自作動画の充実を図り、生徒の学びを支援している。
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたレポート・スクーリングの改善
 - ・ 地歴公民科（地理・世界史）では、問いを立て自ら探究する内容をレポートやスクーリングに盛り込むことで、今までの一問一答が中心のレポートでは得られなかった学びを実現し、生徒自身が学習の楽しさや奥深さに気づくことができた。
 - ・ 対話的な学びの経験が苦手・乏しい生徒が多く在籍する通信制の生徒に対し、「Google form」を活用することで他者の意見を共有し、さらに自らの意見・考えを発展させることもできた。
- レポート・スクーリングの更なる改善に向けての取組課題
 - ・ 論述問題に対する目標到達度（ループリック評価）を生徒に示すことにより見通しを持った学習を意識している。
 - ・ 来年度の新学習指導要領実施に伴い、組織的なレポート・スクーリング改善に取り組んでいる最中である。

5 提言

(1) アンケート報告から

提言 1

新型コロナウイルス感染防止対応の課題を校内、地区通研、全通研で共有するとともに、ICT 教育、オンライン授業、学校行事の先進的取組校に学んで課題解決に努め、自校の教育活動を止めることなく、さらなる質の向上を図る。

(2) 特色ある取組から

提言 2

各校では ICT の環境を整備し、生徒の実態に応じた ICT を活用した質の高い教育を提供するとともに、今回の一時的な措置として留まらず、学習困難な生徒の学びの保障となるよう引き続き研究する。

6 おわりに

東京大会第1分科会本部発表にあたりまして、調査回答に御協力いただき誠にありがとうございました。令和2年から現在も続く、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、学校を取り巻く環境が大きく変化しました。通信制高校においても、その渦中にありながら、生徒の学びをいかに保証するか、試行錯誤を繰り返している状況にあります。

現在、通信制高校は、勤労青少年の学びの場としてよりも、不登校や中途退学を経験した者の学びの場として選択されることが多くなっていることもあり、在籍生徒の平均年齢は若年化が進んでいます。登校することに不安を抱える生徒が多く在籍する学校においては、インターネット上で生徒や学習内容を自己管理できるツールは有効な手段となっており、同時双方向のオンラインでの学習支援や動画の配信なども、コロナ後の社会を見据え、学びの保障としてさらなる進展が求められています。各学校においては、学校の特質や生徒の実態に応じた取組が図られているところかと存じます。

最後に、本研究をとおして、各学校が新たな時代のニーズを踏まえた通信制高校として発展するとともに、通信制高校で学ぶすべての生徒とそれを支える先生方の一助になれば幸いです。